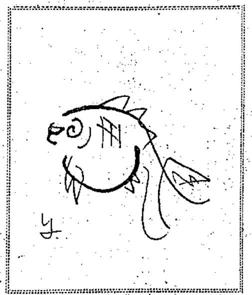
婦人


カット・横山精一

予防にまさる治療なし
赤痢既に昨年の二倍
蚊・ハエの撲滅、常に手を清潔に

梅雨の季節に入り当市の赤痢発生数は六日二十五日現在すでに昨年同期の二倍を越す七十九名に達し、盛夏に向いまだまだ蔓延のおそれがあり、市民の一層の注意と積極的な予防が望まれている。
予防は治療に勝るというが、この赤痢から赤痢を防ぐには各々が平素から赤痢に対する認識を深め予防に万全を期することである。
次に赤痢の伝染経路をみると直接的には（A）のようになっており、又間接的誘因として（B）のようになっている。

（A）
患者又は保菌者の糞 → 水・蠅・手 → 飲食物に付着 → 口 → 発病

（B）
菌 → 暴飲暴食・寝冷下痢・不健康者 → 誘因 → 発病

注意としては①蠅を撲滅する②常に手を清潔にする③生の飲食物はさけること④寝冷え、暴飲食を慎み健康を保持することなどが挙げられる。
なお患者状況をみると抵抗力の弱い婦人子供に多く、衛生的な生活改善に主婦の努力が一段と要望されている。また罹病の場合素人診断や治療は危険であるばかりでなく他の人々にも迷惑を及ぼすことになるから早期に医師の手当を受けることが良い。（保険課）

社会を明るくする運動
青少年臨時相談所設置
子になやむ方はおいで下さい
七月一日から七月卅一日まで

防犯によって社会を明るくする運動は七月一日から三十一日まで全国にくりひろげられるが、市保護司会としては各種団体の協力を得て青少年犯罪防止を重点的にとりあげ、次のように七月中に青少年保護臨時相談所を市内五ヵ所に開設することになった。それで日頃わが子のことになやんでいる人はこの際相談所を利用するよう望んでいる。
十二日公会堂（十時～三時）、十三日七日町錦織寺（十時～正午）、結法蔵寺（一時～四時）、十四日小合（十時～正午）、会場未定、金津（一時～四時）会場未定

入賞、入選百六十四名 学童写生大会

新津、五泉、中蒲の二市一郡学童写生大会は市一教育研究協議会主催で去る六月十九日の日曜朝八時から第一小学校で行われた。参加十ヵ校で幼・小・中学生徒児童約一千名が集ったが、折柄の雨で秋葉山中心に市内各所で行う予定をとりやめ一小周辺と講堂内での静物写生を行い午後二時終った。
この日の入賞は小学校五十二名、中学校十一名計六十三名、入選は小学校八十名の中学校二十一名計百一名で、技術は年々向上しつつあり、作品展を各校で三日交替で移動展を行っている。（写真は一小校庭で写生する生徒）

届出からみた結婚・離婚
落ちついて来た結婚数
危機は25才から30才まで

昨年六月から今年五月にいたる一ヵ年の本市の婚姻、離婚の届出数は婚姻が三百組、離婚が二十二組で、その内二組は調停離婚であった。
婚姻届出数は終戦後昭和二十二年、二十三年がとくに多かったが、その後次第に減って、ここ三、四年から平常をたどっている。離婚も昭和二十三年新民法が行われた当時は最も多かったが、その後年々減る傾向で、とくに裁判離婚が少なくなっている。
婚姻を年齢別にみると男二十五才から三十五才までが百五十五名で一番多く、二十才から二十五才までが七十二名、三十才から三十五才までが四十九名、三十五才以上二十四名であって、女で一番多いのは二十才から二十五才までが百七十五名、次に二十五才から三十才までが九十名、三十才から三十五才までが二十名、三十五才以上が十二名、二十才以下三名の順となっている。
離婚では男女ともに二十五才から三十才までが男九名、女十名で一番多く、次に男では三十才から三十五才までが八名、三十五才以上三名、二十才から二十五才までが二名となっており、女では二十才から二十五才までが六名、三十才から三十五才までが五名、三十五才以上一名の順である。
婚姻後男女とも一年から三年までの離婚が男女とも各九名で最も多く、男三年から五年までが五名、五年から十年までが四名で一年以下三名、十年以上一名であって、女では三年から五年までが六名、一年以下四名、五年から十年まで三名となっている。
なお婚姻は届出によって効力を生ずるものであるから、届出は早期にすることが望まれる。（戸籍課）

年々ふえる水のギセイ
一人では絶対に泳がすな！

水泳に、魚捕りに、子供たちにとっては楽しい水の季節がやってきたが学校や父兄の深い注意にもかかわらず、年々数多い水のぎせい者が出ているので、今年もより一層の注意をもって水難の防止が望まれている。
県の統計によると、昨年中の水のぎせい者は、小・中・高校の児童生徒中死亡したもの六十五名でこのうち小学生が五十七名の約九割となっており七、八月のお盆を中心とした時期が最も多い。このうち水泳中に溺死した者が四十二名、水に落ちて死んだ者が二十三名で溺死の主な原因は、急に深みへはまった者が最も多く、水に落ちた者では、橋、川岸、岩から足をすべらしている者が多い。
当市でも最近小学校一年生が魚釣りを見について行き、川中に転落水死した事件がおきた。
これらの事故防止には何よりも環境の整備が第一であるが、現在石川島工場跡に一三メートル×二五メートルのプールがあるのみで、七月一日から八月末日まで、幼・小・中・高校とそれぞれ日割をきめて先生の引率のもとに水泳をやらせているだけである。このプールでは到底子供たちの希望を満たすことはできない。
それで各学校では、父兄、地域P・T・Aなどと連絡をとり、学区内の状況をよく調査して具体的な防止対策をたてて指導につとめているが、まず
○一人では絶体に泳ぎに行かない。
○必ず家の方にことわって行かせる。
○時々注意を喚起してやる。
など、特に小学校や就学前の幼児の父兄はこれに徹底した注意をむけて頂き、今後このような悲しい事故のおきないよう希望している。（教育委員会）

婦人図書室

絵のない教育漫画
田中久直著
子どもはそれさえ知らない
新日本教育協会

三年にもなっても「あさって」や「おととい」さえ知らない子ども学力低下をいわれながら「へりくつ」をいう子どもなど、戦後の子どもがどんなに教育されているかを知りたいが、かたくるしい本はだめだという母親にすすめたい本です。五十六の短文はどこから読んでもよく、どれも子どもにたいする信頼と愛情に支えられて笑と涙がかくされている。戦後の教育の実際について、やさしい文章で書かれた絵のない教育漫画ということのできる新しい型の本です。（新書版、二五一頁、新日本教育協会発行、一五〇円）

各国の母親の生活と意見
ユネスコ・ペンパルズ編
地球の片隅で一手紙に託した生活の断章
朝日新聞社

世界が東と西に二つにさかれてもいろいろの国で平凡に暮している庶民の間の文通は生活の真実をつたえてくる。外国の母親たちがどんな暮し方をし考え方をしているかを日常の生活通信によって知りたいという母親にすすめる本です。一つは中国人と日本で結婚して終戦直前に北京に渡った日本人女性が、日本の実家に十年間に書き送った十五通の手紙である。社会革命と人間改造による変化が手紙の調子にあらわれて、不安から落付きへ、誇りと自信にかがやいた手紙になる。次に西ドイツ、英国、ユーゴ等の母親から四十四通、アメリカから十七通の手紙があり、ストのない国といわれている西ドイツでもストがあったり、社会保障が行きとどいているといわれるイギリスの母親からは婦人の給料が男より少し安いので同じにするため斗っているとか、ユーゴの母親からは男女に給料の差がないとか各国の政治が生活にどう映し出されているかがわかる。（長形新書判「朝日文化手帖五二」一五七頁、朝日新聞社発行、一〇〇円）

図書を配達
以上の二冊は短い文をあつめたもので、仕事の合間にどこでもあとに廻して読んでもかまわない。読みたい方は図書館に申込まれれば配達します。母親読書会のテキストに適している。（市立図書館）

モデル婦人学級
公民館が婦人会にアンケート
西金沢婦人会 衛生部落の建設

市の単位婦人会は今度の合併で五十九団体、会員数約四千人にふくれ上り、いずれもそれぞれの地域に根をおろし〃明るい新津住みよい郷土〃の建設に独特な活動を展げているが、市公民館ではこれら婦人の向上に婦人学級を計画、まず七月中旬から本館地域（市内）の婦人を対象にはじめるがいままでの天降り式講座をやめて真に婦人の求めるものにしようとこのほど地域内の婦人会にどのような婦人学級が望まれているかアンケートを出した。これによってその方向を適確につかんで講座を組み、将来はこれをモデルケースとして全分館に及ぼすことになった。

西金沢婦人会
西金沢婦人会では、同町内会が衛生モデル町内を目指して蠅や蚊のいない清潔地域とすべく、市厚生課の指導を得て着々実践活動を展開したのに呼応し、保健所の鈴木所長や公民館を招いて指導会を持ち地域と表裏一体の活動をとりあげている

金津婦人会
また金津婦人会では明るい家庭の建設と婦人の質的向上を目ざし去る六月二十日新潟盲学校教諭を招いてマッサージ、按摩術などの手技講習を開いて一般の好評を呼んでいる。以下毎号特色ある婦人活動の紹介を本欄で行ってゆく。
（写真上は西金沢婦人会の蚊・ハエ退治のゴミ溜造り、下は金津婦人会のアンマ講習風景）

ビニール手芸講習会 12 13日公民館
公民館ではビニール加工による手芸講習会を十二、三日の両日同館内で開く。講師は金津酒井女史、材料費百円から二百円自弁のこと。